

# HELLO!!!

## ただいま！

内子町の皆さん、こんにちは。ま、「こんにちは」より「ただいま」と書いたほうが正しいと思います。ほとんどの町民の皆さんがわたしのことを覚えていらっしゃるかもしれませんが、簡単に自己紹介をさせてください。

### ◎自己紹介

わたしはドレーン・アルントと申します。ドイツの首都ベルリンから来ました。旧東ドイツで生まれ、ベルリンの壁が崩壊したときは13歳でした。

高校時代から言葉や文化をはじめ日本に大きな関心を持っていたので、ベルリンのフンボルト大学に入学した際に日本学を専攻し、2003年に修士号を取得して卒業しました。

日常生活や就労を通じて、日本や日本人について理解を深めたり、日本の伝統芸能や日本人の考え方を学んだりしたかったので、JETプログラムに応募し、2004～2007年まで(財)内子町国際交流協会に国際交流員として勤めました。その3年間に日本語能力を深め、日本の社会、特に人間関係をよく知るようになって、労働社会や内子町役場の仕事の方法

などを認識しました。日本での生活にすぐに順応することができたと思います。

### ◎内子町への思い

2007年に帰国したときに(なぜ2年前にドイツへ帰国したのか、正直に言うと、わたしにも分かりません)、内子町のためにやり残した仕事がたくさんありました。例えば、観光地や博物館などの資料づくりや翻訳、ドイツ語講座、国際理解講座、ローテンプルク市との友好関係を深めること、町並み保存など。これらに対して、自分の責任を果たしたいと思っています。

内子町にいる間に、子どもも大人も非常に好奇心が強いと感じていたので、ドイツ人、またヨーロッパ人として、日本人ではない代表とし

て、町民の皆さんの関心・理解力・視野をもっと広げたいと思います。

わたしのモットーは「自分の目で世界を見る機会がない内子町の人たちのために、世界を持っていきたい」ということです。相互理解と教育に役立ちたいと思います。

何をするときでも、強い動機・興味・関心を持って取り組みます。仕事に深く関わり、責任を持って働きます。新しい挑戦を精一杯頑張りたいと思います。これから、今までの経験と人脈を生かして、内子町の顔となり、前回よりもっともっと一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

こうして、わたしのことを再び受け入れて、あらためてチャンスを与えていただき、本当にありがとうございます。



国際交流員  
ドレーン・アルント

Doreen Arndt

●ドイツでのお別れパーティーの様子



※JETプログラム＝「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称。地方公共団体が総務省・外務省・文部科学省・(財)自治体国際化協会の協力のもとに実施する。